

記載上の注意事項

1. 履歴書（様式1-1）

- ① **学歴**は、大学入学以降の学歴、卒後臨床研修歴、研究生などの研究歴を記入して下さい。
職歴には、給与関係を除いて下さい。なお、履歴の空白期間には、説明（自主研修等）をつけて下さい。研究歴及び教育歴には、所属講座・部門等まで記入して下さい。
- ② **免許及び資格**には、医師免許、歯科医師免許、認定医、専門医、指導医、標榜医等を記入して下さい。
- ③ **学位**には、授与された大学名も記入して下さい。また、大学院の課程修了による学位は大学名の後にAと、論文提出による学位はBと記入して下さい。
- ④ **学会活動等**は、所属の学会名、役職名等を記載して下さい。
- ⑤ **賞**には、学術活動による表彰を記入して下さい。
- ⑥ **年の表示**については、西暦で記入して下さい。（以下共通）

2. 業績目録（様式1-2）

- ① **A～G**の各項について記入して下さい。（目録の1枚目から順に頁を付して下さい。）
- ② 目録**A～D**には、既に刊行されたものと、受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中、in press）のみを記入して下さい。
（注1）記載は、欧文・和文に分けて、それぞれ発行年順に記入して下さい。
（注2）記載方法は、記載例を参照して下さい。本人には、アンダーラインを付して下さい。
（注3）共著者名は、業績に記載してある順に全員記入して下さい。責任著者に印（*）を付して下さい。
（注4）発表論文のインパクトファクター（IF、最新の値）を記入してください。
A. 原著とは、著者の研究成果をまとめたもので、referee journalに記載された論文を指します。（注）学位論文に相当する原著の番号を○印で囲って下さい。
B. 症例・治験・手技の項には、A、C、Dのいずれにも属さないものを記載して下さい。
C. 総説には、展望・講座・解説等が含まれます。
D. 著書には、翻訳が含まれますが、その場合は（翻訳）と記して下さい。
- ③ **E. 学会発表**については、**a. 特別講演・シンポジウム**等、**b. 一般発表**（最近5年間の発表総数と主要なもの10題以内）をそれぞれ欧文・和文に分けて年代順に記入して下さい。なお、講演要旨或いは抄録の掲載記録は、行末に括弧を付けて記入して下さい。
- ④ **F. 研究助成金取得状況**については、文部科学省（文部省）・厚生労働省（厚生省）・その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）、財団等の助成金等）に分け、代表研究者か分担研究者の別、及び助成額（直接経費）を明記して下さい。分担研究者の場合は総額と配分額（直接経費）を明記して下さい。
- ⑤ **G. H-index**については、Google Scholar Citationsで調べた数値を記載して下さい。

3. 自己紹介（様式任意）

経歴と研究を中心に、150字程度で記載してください。

4. 研究・診療実績（様式任意）

現在までの研究・診療の実績について、その経過と成果等を2000字程度で業績目録の論文リストとは別に記載して下さい。

なお、診療実績については、2019年3月31日までの過去5年間の勤務先において、初療あるいは主治医として担当した症例数及び当該施設における同一期間の全症例数について、「Ⅰ. 急性疾病」「Ⅱ. 外因性救急」「Ⅲ. ショック」「Ⅳ. 来院時心肺停止」に分類して明記して下さい。

【記載例】

	施設名 診療科(部)名	勤務期間	初療あるいは主治医と して担当した症例数	施設の全症例数
Ⅰ. 急性疾病	〇〇市立病院救急科	2014. 4. 1～2015. 3. 31	5	6
	〇〇大学附属病院 救急科	2015. 4. 1～2019. 3. 31	25	30
Ⅱ. 外因性救急	〇〇市立病院救急科	2014. 4. 1～2015. 3. 31	6	7
	〇〇大学附属病院 救急科	2015. 4. 1～2019. 3. 31	30	35
Ⅲ. ショック	〇〇市立病院救急科	2014. 4. 1～2015. 3. 31	2	3
	〇〇大学附属病院 救急科	2015. 4. 1～2019. 3. 31	10	15
Ⅳ. 来院時心肺停止	〇〇市立病院救急科	2014. 4. 1～2015. 3. 31	2	3
	〇〇大学附属病院 救急科	2015. 4. 1～2019. 3. 31	10	15

5. 教育実績（様式任意）

教育に関する研修歴、主な講義内容、教務・厚生補導等に関する委員歴等その他教育に関する経験、実績等について記載して下さい。

6. 応募理由書（様式任意）

- (1) 研究、教育（卒後教育を含む）、診療について
今後の抱負を記載して下さい。
- (2) 教授として診療、研究についてのコンプライアンスの方針と考え
400字程度で記載して下さい。

- (注) 1. 上記書類は、学内に公開されることがあります。
2. 上記書類は、原則としてA4版とし、ワード等を用いて作成して下さい。
3. 応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。(責任をもって廃棄いたします。)

※CD-ROM の作成について

- (1) 上記の1. 履歴書, 2. 業績目録, 3. 自己紹介, 4. 研究・診療実績, 5. 教育実績, 6. 応募理由書を通しページとしたMS Word ファイル及びPDF ファイル [ファイル名は「氏名 (〇〇〇〇) 応募書類. …」] をコピーして下さい。
- (2) 主要論文10編以内のPDF ファイルには, 「氏名 (〇〇〇〇) 主要論文 1. pdf」「氏名 (〇〇〇〇) 主要論文 2. pdf」「氏名 (〇〇〇〇) 主要論文 3. pdf」…の様に通し番号を振りつけて下さい。
- (3) 主要論文の要約のファイル名は「氏名 (〇〇〇〇) 要約. pdf」として下さい。
- (4) 推薦状のファイル名は「氏名 (〇〇〇〇) 推薦状. pdf」として下さい。

履 歴 書

ふりがな ち ば た ろう
氏名・性別 千 葉 太 郎 ㊦ 男
生年月日 1 9 5 0 年 5 月 3 1 日
現住所 千葉市中央区亥鼻 1 - 8 - 1
現職 千葉大学准教授大学院医学研究院 (〇〇学)

学歴及び職歴

1969年 4月 1日 千葉大学医学部入学
1975年 3月 23日 千葉大学医学部卒業
1975年 6月 1日 医員 (研修医) (千葉大学医学部附属病院〇〇科) (1976年 3月 30日まで)
1976年 4月 1日 千葉大学大学院医学研究科博士課程 (〇〇系) 入学
1980年 3月 25日 千葉大学大学院医学研究科博士課程 (〇〇系) 修了
1980年 4月 1日 研究生 (千葉大学医学部〇〇学講座) (1982年 3月 31日まで)
1982年 4月 1日 医員 (千葉大学医学部附属病院〇〇科) (1983年 3月 30日まで)
1983年 4月 1日 文部教官 千葉大学助手医学部附属病院 (〇〇科)
1986年 9月 1日 文部省在外研究員 (アメリカ合衆国ペンシルバニア大学医学部生理学講座) (1987年 6月 30日まで)
1987年 12月 1日 千葉大学講師医学部附属病院 (〇〇科)
1988年 4月 1日 厚生技官 (国立〇〇病院〇〇科医長)
1990年 4月 1日 文部教官 千葉大学講師医学部 (〇〇学講座)
2001年 1月 6日 中央省庁等の再編に伴い、文部教官は文部科学教官となった
2001年 4月 1日 文部科学教官 千葉大学講師大学院医学研究院 (〇〇学)
2004年 4月 1日 国立大学法人法の規定により国立大学法人千葉大学職員となった
2004年 5月 1日 千葉大学助教授大学院医学研究院 (〇〇学)
2007年 4月 1日 千葉大学准教授大学院医学研究院 (〇〇学)

免許及び資格 医師免許 (登録番号 123456 号) 1 9 〇 〇 年 〇 月 〇 日
第一種放射線取扱主任者 (登録番号 78910 号) 1 9 〇 〇 年 〇 月 〇 日
日本内科学会認定医, 日本循環器学会専門医

学 位 医学博士 (千葉大学A) 1 9 8 0 年 3 月 2 5 日

学会活動等 日本薬理学会評議員, 日本生理学会員, 日本神経科学会専門委員
International Brain Research Organization 会員
編集委員: 蛋白質・核酸・酵素, Journal of Biological Chemistry

賞 日本細菌学会黒屋奨学賞 (〇〇〇に関する研究, 1 9 〇 〇 年)
日本電子顕微鏡学会瀬藤賞 (〇〇〇に関する研究, 1 9 〇 〇 年)

業 績 目 録

A. 原著

- ①. Chiba T. Electron microscope observations on the fusion of chick myoblasts in vitro. J Cell Biol. 1980;48:128-42. 【IF= 】
2. Kono M, Ishikawa K, Chiba T. Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res.1987;25:216-9. 【IF= 】
3. Grant S, Kobayashi H, Chiba T. Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc Natl Acad Sci USA.1991;76:3537-41. 【IF= 】
4. Suzuki N, Chiba T, Bader D. Molecular cloning and expression of chicken cardiac troponin T. Cir Res.1996;65:1246-51. 【IF= 】
5. Hastings KEM, Koppe RI, Marmor E, Chiba T, Aoki N. Structure and developmental expression of troponin I isoforms. J Biol Chem. in press 【IF= 】
6. 野田雄二, 唐沢義一, 千葉太郎, 工藤栄一 食道癌手術視野からみた気管支動脈の走行に対する解剖学的検討. 日外会誌 1990;94:456-65.
7. 小林秀雄, 千葉太郎, 石川洋一 右開胸食道癌根治手術時における上縦隔リンパ節の郭清可能範囲に関する研究. 日消外会誌 1997;26:2134-9. 【IF= 】
8. 中野 浩, 伊藤浩二, 千葉太郎, 和田幸平 下肢刺激 SEP の随意運動による影響. 臨床脳波. 印刷中

B. 症例・治験・手技

1. Kawai A, Ishige T, Chiba T, Murayama W. Malignant exophthalmos associated with multiple myeloma. Inter Med. 1995;32:875-8. 【IF= 】
2. Chiba T, Fujita M. A case of renovascular hypertension: segmental hypoperfusion resulting from single vessel stenosis in the presence of bilateral duplex renal arteries. Jpn Cir J. 1999;56:620-2. 【IF= 】
3. 中野俊一, 千葉太郎, 橋本三郎 上皮小体の癌と腺腫の異時性重複と思われる 1 症例. 耳頭頸 1997;65:647-52.

C. 総説

1. Chiba T. Brain damage due to surgical injury to the cerebral vein. Clin Rev Neurosurg. 1996;3:191-5. 【IF= 】
2. 千葉太郎 FACS を用いた細胞間接触と Ca²⁺ シグナルの検索. 実験医学 1997;11:93-8.

D. 著書

1. Peltz S, Chiba T, Jacobson P. mRNA turnover in *Saccharomyces cerevisiae*. In: Control of Messenger RNA Stability ed. Brawerman G, Belasco J, San Diego, CA: Academic Press Inc. 1995:291-327.
2. Woolford J, Chiba T, Warner R. The ribosome and its synthesis. In: The Molecular and Cellular Biology of the Yeast *Saccharomyces*: Genome Dynamics, Protein Synthesis and Energetics. vol.1, ed. Broach JR, Pringle JR, Jones EW, Cold Spring Harbor, NY: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 1997:587-626.
3. 千葉太郎 心肺運動負荷テスト. 運動と呼吸, 谷村真一編, 南江堂, 東京, 1996:1-10.
4. 野口進一, 千葉太郎 レセプター遺伝子の発現と合成, レセプター: 基礎と臨床, 今井和夫編, 朝倉書店, 東京, 1997:92-105.

E. 学会発表

a. 特別講演・シンポジウム

1. Chiba T, Kawai A, Ishige T. Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization. 8th International Congress of Human Genetics Symposium. 1996 (Am. J. Hum. Genet. Suppl. 1996;49:210-1.)
2. 千葉太郎 XYZ 症候群と精神障害. 第 85 回日本解剖学会総会. 1997 (解剖誌. 1998;10:379-80.)

b. 一般発表 (最近 5 年間の発表総数〇〇題, うち主要なもの 10 題以内は以下のとおり)

1. 土屋伸也, 千葉太郎 食道静脈瘤の外科的治療. 第 81 回日本消化器病学会. 1996 (日消会誌. 1997;54:46.)
2. 田辺英男, 大竹昌彦, 千葉太郎, 河野雅敏 食道静脈瘤外科的治療における腹水の意義と管理. 第 82 回日本消化器病学会. 2000 (日消会誌. 2000;56:345.)
3. 千葉太郎, 野口進一 運動初期の換気亢進の検討. 第 71 回日本生理学会大会. 2000 (日生会誌. 印刷中)

F. 研究助成金取得状況

a. 文部科学省（文部省）科学研究費

一般研究（B）「遺伝子発現，蛋白質合成及び構造形成の機構」研究代表者，1995-1996年【助成額＝　　】

一般研究（A）「○○○に関する細胞生物学的研究」研究代表者，1997-1999年【助成額＝　　】

試験研究（B）(2)「○○○に関する研究」研究分担者（研究代表者 ○○大学 大沢三郎），1994-1995年【助成額＝　　】

重点領域研究（2）「○○○に関する基礎的研究」研究分担者（研究代表者 △△大学 齋藤五郎），1997-1999年（1997・1998・1999年度文部省科学研究費補助金重点領域研究（2）研究報告書. 2000:708-11.）【助成額＝　　】

b. 厚生労働省（厚生省）科学研究費

精神・神経疾患研究委託費「○○○に関する研究」研究分担者（研究代表者 ××大学 小杉六郎），1994-1996年（厚生省精神・神経疾患研究委託費平成元年報告書. 1995:63-7. 1995年報告書. 1996:50-5. 1996年報告書. 1997:53-8.）【助成額＝（総額＝　　、配分額＝　　）】

c. その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）、財団等の助成金 等）

受託研究費 「○○○○○についての研究」研究代表者（△△製薬）【助成額＝　　】
Muscular Dystrophy Association "Neuronal control of postsynaptic muscle protein".
1997-1999. (Annual Report. 1997:105-10, 1998:150-5, 1999:161-5.)

○○記念財団自然科学研究「○○○に関する研究」研究代表者（○○記念財団自然科学研究報告書 1997:187-9.）【助成額＝　　】

G. H-Index

H-Index＝

【Google Scholar Citations で調べた数値】